

平成22年5月6日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19730315

研究課題名（和文）保険契約の公正価値測定に関する基礎研究

研究課題名（英文）Basic Research in Fair Value Measurement of Insurance Contracts

研究代表者

草野 真樹 (KUSANO MASAKI)

京都大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：50351440

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、保険契約を中心に公正価値測定の制度化過程について分析することである。本研究では、保険契約の会計と密接に関連する金融商品と収益認識の会計処理に関して、次の成果を得た。(1) 顧客との関係の取り扱いと報告企業の信用状態の変化は、金融負債の公正価値測定を考える上で重要な検討課題である。(2) 履行債務のように活潑な市場が存在しない項目を公正価値で測定する場合、モデル誤差や報告偏向誤差によって、ストック情報の有用性が低下する可能性がある。このことは、保険契約の公正価値測定においても当てはまり、公正価値測定の制度化過程を分析する際に重要な示唆を提供する。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to analyze institutional processes of fair value measurement focusing on insurance contracts. The following results were obtained about accounting for financial instruments and revenue recognition that are closely associated with accounting for insurance contracts. (1) The treatments of customer's relationship and changes in credit worthiness are very important issues in considering the fair value measurement of financial liabilities. (2) When the items that there are no active and deep markets such as performance obligations are measured at fair value, there are possibilities to decrease the usefulness of information of stock because of model errors and reporting bias errors. These results are applied to the fair value measurement of insurance contracts and offer an important suggestion for analysis of fair value measurement.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	330,000	1,930,000

研究分野：会計学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：会計学，公正価値，保険契約，金融商品，収益認識

1. 研究開始当初の背景

近年、アメリカの財務会計基準審議会 (FASB) と国際会計基準審議会 (IASB) は、資産と負債を公正価値で測定する会計基準を公表する傾向にある。FASB は、2006 年 9 月に財務会計基準書 157 号『公正価値測定』を、また IASB は、2005 年 11 月に討議資料『財務会計の測定基準—原初認識の測定』を公表し、今後一層、資産と負債を公正価値で測定する方向に向かうことが予測された。

そうした状況の中で、IASB は、2007 年 5 月に討議資料『保険契約に関する予備的見解』(以下、「討議資料」) を公表し、保険債務を公正価値に類似した現在出口価値 (current exit value) で測定することを提案した。保険契約の会計処理は、IASB と FASB を中心に審議を進めている他のプロジェクト (例えば、概念フレームワーク、収益認識、公正価値測定、業績報告、金融商品、国際会計基準書 37 号の改訂、負債と持分の区分など) と密接に関連するため、保険契約の会計は公正価値会計の特性を明らかにするための格好の検討材料であると考えられる。

昨今、金融商品、年金、そして資産除却債務を中心に、負債の公正価値測定について理論研究と実証研究が行われ、研究成果は蓄積されつつある。ところが、保険契約について、国内では、ほとんど会計学研究は行われておらず、研究成果は未だ蓄積されていない。さらに、国外でも、Richard Macve 教授 (London School of Economics) など少数の研究者が保険契約の研究を行っているのみである。ファイナンス (とりわけ、年金数理関係) の実務家または研究者が、国内・国外を問わず、保険契約の測定を中心に精力的に研究を進めている状況である。

研究代表者である草野は、公正価値測定の典型的事例である金融商品の公正価値測定を素材として、業績報告について研究を行い、その成果として、2005 年 2 月に『利益会計論—公正価値評価と業績報告』を公表した。当該研究では、金融商品の公正価値測定を前提としていたために、資産と負債の測定それ自体の問題を論じておらず、今後の検討課題として残されていた。そこで、負債の公正価値測定について研究に取り組み始めた草野は、それまでの研究成果を踏まえ、さらに研究を展開かつ深化させるために、保険契約を中心に負債の公正価値測定について分析し、公正価値会計に内在する特性を明らかにする必要があると考え、科学研究費補助金を申請した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、保険契約を中心に公正価値測定が制度化される過程を分析することである。すなわち、保険契約の会計処理を整理して計算構造を明らかにした上で、IASB で審議が進められている保険契約プロジェクトを取り上げ、公正価値測定が導入される過程を分析して、歴史的な原価会計から公正価値会計への会計システムの変化に関するインプリケーションを抽出することである。

(1) 保険契約の会計の構造分析

保険契約には、金融商品と役務提供という 2 つの側面があり、どちらの側面に着目するのかによって、保険契約の測定方法は大きく異なりうる。現行の会計実務は、保険契約を役務提供と捉えて、保険契約からの収益と費用を、役務が提供される保険契約期間に亘って徐々に認識する繰延・対応アプローチを採用している。

ところが、IASB は、保険契約を金融商品と捉えて、金融商品と統合的な会計処理を提案する。すなわち、保険契約からの収益と費用を、保険資産と保険負債の測定の変動の観点から定義し、それらを現在出口価値 (公正価値) で測定する資産・負債測定アプローチを提唱する。当該アプローチは、現行の会計実務と大きく異なっている。

そこで、本研究では、IASB またはその前身である国際会計基準委員会 (IASC) が公表した文献を用いて、繰延・対応アプローチと資産・負債測定アプローチを分析して、両者の計算構造とその特徴を明らかにする。

(2) 保険契約の会計と関連するプロジェクトの整理・分析

上述したように、保険契約は、金融商品と役務提供という 2 つの側面がある。繰延・対応アプローチは、保険契約の役務提供の側面に着目し、例えば、国際会計基準書 18 号『収益』が役務提供の会計処理を規定している。一方、資産・負債測定アプローチは、保険契約の金融商品の側面に着目し、例えば、国際会計基準書 39 号『金融商品：認識と測定』が金融商品の会計処理を要求している。

IASB と FASB は、会計基準のコンバージェンスを推進する中で、保険契約のプロジェクトのみならず、金融商品と収益認識のプロジェクトにも取り組んでいる (事実、IASB は、2008 年 3 月に討議資料『金融商品の報告における複雑性の軽減』、そして 2008 年 12 月に討議資料『顧客との契約における収益認識についての予備的見解』を公表している)。

そこで、歴史的な原価会計から公正価値会計への会計システムの転換に関するインプリケーションを抽出するためにも、保険契約の会計処理に関連する項目についても検討を行い、公正価値測定の特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、以下のよう
に研究を進める。

(1) 保険契約の会計と関連するプロジェクトの整理・分析

保険契約は、金融商品と役務提供という2つの側面がある。保険契約の会計を理解するためには、金融商品と収益認識の会計処理について整理する必要がある。さらに、IASBとFASBは、会計基準のコンバージェンスを推進する中で、金融商品と収益認識の会計処理について取り組んでいる。そこで、IASBとFASBが検討している金融商品と収益認識のプロジェクトについて整理・分析を行う。

また、保険契約の会計と関連するのは、金融商品と収益認識のプロジェクトだけではない。概念フレームワーク、非金融負債、退職後給付などのプロジェクトも保険契約の会計と密接に関連する。そこで、保険契約の会計と関連する項目について幅広く検討することによって、公正価値測定の特徴を明らかにする。

(2) 保険契約の会計の構造分析

保険契約の会計モデルとして、大きく繰延・対応アプローチと資産・負債測定アプローチの2つに分けられ、前者は現行の会計実務で用いられているアプローチであり、後者はIASBで提案されているアプローチである。IASBは、2007年5月に討議資料を公表し、保険契約による収益と費用を保険資産と保険負債の変動と定義し、両者を公正価値によって測定する資産・負債測定アプローチを提唱している。

そこで、討議資料を分析することによって、保険契約の会計処理の構造を明らかにする。さらに、IASBの前身であるIASCの保険起草委員会が公表した論点資料『保険』や『原則書草案』も検討の対象として含めることによって、保険契約における歴史的な原価会計から公正価値会計への変化の過程を明らかにすることが期待される。

また、IASBは、討議資料の公表以後も公開草案と会計基準の公表を目指して、保険契約のプロジェクトを進めている。したがって、討議資料以後の保険契約のプロジェクトの動向も整理・分析する。

4. 研究成果

本研究の目的は、保険契約を中心に公正価

値測定が制度化される過程を分析することである。3年間の研究期間（2007年度～2009年度）で、6本の論文（雑誌論文と図書の分担執筆）、国内外で4つの学会報告、そして研究会（生命保険会計研究会）で報告を行った。本研究の成果は、以下のとおりである。

(1) IASB(IASC)の金融商品プロジェクトを①混合属性会計の改善、②全面公正価値会計の提案とその頓挫、③公正価値オプションの導入とその制限、④全面公正価値会計の指向という4つに分けて、各々の動向とその背景について整理した。その上で、金融負債の公正価値測定論点として、①初日の損益の計上と②報告企業の信用状態の変化を明らかにし、考察を行った。

(2) ローン・コミットメントと要求払預金を取り上げて、金融負債の公正価値測定と（長期的な）顧客との関係による無形財について検討した。要求払預金を検討対象とした金融負債の公正価値測定の特徴として、要求払預金を公正価値で測定する際に、コア預金無形財を認識・測定の対象として取り扱わない場合、公正価値の定義と測定値の分離を指摘することができ、コア預金無形財を認識・測定の対象として取り扱う場合、自己創設の無形財の認識を指摘することができる。

(3) 金融負債を公正価値で測定する際に、報告企業の信用状態（信用リスク）の変化に合わせて金融負債の測定額が変動することに懸念が表明されてきた。そこで、報告企業の信用状態の変化を考慮して、金融負債を公正価値で測定する場合、上記の懸念を回避する代替的な方法を示した上で、その利益測定の特徴を明らかにした。

(4) 現在、ストック情報の重要性を重視して、公正価値測定が進められている。履行債務のように活潑な市場が存在しない項目を公正価値で測定する場合、モデル誤差と報告偏向誤差によって、公正価値測定の信頼性が低下し、ストック情報の有用性が低下する可能性がある。ストック情報の有用性の低下を補完するために、フロー情報が必要とされるが、公正価値測定によって、フロー情報の有用性も低下する可能性がある。

(5) IASBの保険契約のプロジェクトを整理した上で、本研究の成果を踏まえて、保険契約の公正価値測定が抱えている問題点を明らかにした。この成果は、生命保険会計研究会で報告している。

現在、IASBとFASBは、会計基準のコンバージェンスを進める中で多くのプロジェク

トに取り組んでいるが、本研究の成果は、これらのプロジェクトを整理・分析する上で重要な示唆を提供すると期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

1. 草野真樹「金融負債の公正価値測定と無形財—要求払預金の会計処理を中心として—」『会計』第 176 巻第 4 号, 2009 年, 529-544 頁, 査読無.
2. 草野真樹「金融商品の公正価値会計と複式簿記—ローン・コミットメントを中心として—」『日本簿記学会会報』第 24 号, 2009 年, 102-110 頁, 査読有.
3. 草野真樹「金融商品の全面公正価値会計の課題—ローン・コミットメントを中心として—」『会計』第 174 巻第 4 号, 2008 年, 556-568 頁, 査読無.
4. 草野真樹「PAAinE 討議資料の収益認識アプローチの意義と課題」『企業会計』第 60 巻第 8 号, 2008 年, 48-56 頁, 査読無.
5. 草野真樹「全部公正価値会計の適用可能性—銀行業の金融商品の会計処理を中心として—」, Osaka University of Economics Working Paper Series No. 2007-9, 2008 年, 1-17 頁 査読無.

[学会発表] (計 4 件)

1. 草野真樹「金融負債の公正価値測定と信用状態の変化」日本簿記学会第 25 回関西西部会, 九州大学, 2009 年 5 月 30 日.
2. Masaki Kusano, “The Applicability of Full Fair Value Accounting: Accounting for Financial Instruments in Banks,” Ninth Annual Asian Academic Accounting Association Conference, 30 November, 2008, Dubai, United Arab Emirates.
3. Masaki Kusano, “The Boundaries of Full Fair Value Accounting for Financial Instruments,” Twentieth Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, 11 November, 2008, Le Meridien Monparnasse, Paris, France.
4. 草野真樹「金融商品の全面公正価値会計と複式簿記」日本簿記学会第 24 回関西西部会, 滋賀大学, 2008 年 5 月 31 日.

[図書] (計 1 件)

1. 草野真樹「公正価値会計の動向とその論点—金融商品の会計処理を中心として—」瀧田輝己先生還暦記念論文集編集委

員会編『社会規範としての会計』千倉書房, 2008 年, 101-126 頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

草野 真樹 (KUSANO MASAKI)
京都大学・経済学研究科・准教授
研究者番号: 50351440

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし